

# 2016年度精神分析セミナー —第7期3年次開催のご案内—

主催：日本精神分析インスティテュート福岡支部 運営委員長：西園 昌久

## 精神分析セミナー2016年度(第7期3年次)へのご挨拶

日本精神分析インスティテュート福岡支部 運営委員長 西園 昌久

これまで2年間、精神分析の基礎理論、治療技法の骨子をフロイトの原法のみならず、今日の精神分析各派について学んでこられました。その中で、話題になった精神分析家たちの人間性とその成長を感じとられたと思います。本年度は、臨床応用がテーマなので、より具体的な内容で、皆さんの日常臨床活動により刺激的なものになることが期待されます。

### <2016年度の開講予定>

\*2016年度は6回開講する予定です。各回とも土曜日(15:00~20:00)と日曜日(9:30~12:30)を使つての開催となります

|   |                        |               |
|---|------------------------|---------------|
| 第1回『神経症論』   |                        | コーディネーター：西園昌久 |
| かつて、“神経症を知る人は人を知る人”と言われました。精神分析の発達も神経症の治療を通じてなされました。ここでは、神経症理解の基本から、各論、さらには、心身相関、今日的課題について論じます。                                   |                        |               |
| 平成28年5月14日(土)   |                        |               |
| ① 神経症総論<br>1) 神経症の力動モデル 2) 神経症の類型 3) 今日の「神経症」   | 西園昌久(心理社会的<br>精神医学研究所) |               |
| 参考図書：フロイト「精神分析入門」、西園昌久「西園精神療法ゼミナール③精神療法の現場から—実践 力動的<br>精神療法」(中山書店)  |                        |               |
| ② 神経症各論   | 岡田暁宜(南山大学)             |               |
| 参考図書：西園昌久「精神分析の理論と実際(神経症編)」(金剛出版、1975)、フロイト「神経症の原因としての性」(1898)、フロイト「ヒステリー研究」(1859)、フロイト「強迫神経症の一症例に関する考察」(1909)、フロイト「精神分析入門」(1916) |                        |               |
| 平成28年5月15日(日)   |                        |               |
| ③ 心身症<br>1) 心身症とは 2) 死の病理 3) その治療概論   | 前田重治(九州大学名<br>誉教授)     |               |
| 参考図書：前田重治「続図説・臨床精神分析学」、「新図説・精神分析的面接入門」(誠信書房)  |                        |               |
| ④ 総括  |                        |               |

## 第2回『精神医学と精神分析』

コーディネーター:鈴木智美

精神医学の臨床において、精神分析がどのような寄与をするのかについて学びます。疾患だけでなく、病んでいるその人の理解につながる発見があるでしょう。

### 平成28年7月23日(土)

#### ①統合失調症

セミナーにおいては、精神分析における統合失調症の研究について、まずフロイトの歴史的な研究を紹介する。そして、クライン、ローゼンフェルド、ビオンなど主としてクライン派の研究を中心に解説したい。米国の研究については、簡単に紹介したい。

衣笠隆幸(平和通り心療クリニック)

参考図書: ①フロイト,S.(1907);「イエンジェンの小説『グラディーヴァ』に見られる妄想と夢」、フロイト著作集 IX、人文書院、1977 ②フロイト,S.(1911);「自伝的に記述されたパラノイア(妄想性痴呆)の一症例に関する精神分析的考察」、フロイト著作集 XII、人文書院、1977 ③クライン,M. 1946;「分裂機制の覚書」、狩野力八郎他訳、クライン著作集4、誠信書房、1987 ④ローゼンフェルド(1971);東中園総訳「精神病状態の精神病理への寄与」、松木邦裕監訳、メラニー・クライントゥデイ①、岩崎学術出版社、1993 ⑤ビオン(1967)「精神病的パーソナリティーの非精神病的パーソナリティーからの識別」;中川慎一郎訳、松木邦裕監訳『再考—精神病の精神分析理論』金剛出版、2007 ⑥衣笠隆幸(2004);「精神病的パーソナリティーの精神分析的研究;その概観、統合失調症の研究を通して、精神分析研究、48巻、No. 1、2-18

#### ②感情障害

1) 喪の哀悼と抑うつ 2) 抑うつ・うつ病の鑑別 3) 抑うつ of 精神分析臨床

松木邦裕(京都大学)

参考図書:松木邦裕・賀来博光編「抑うつ of 精神分析的アプローチ」(金剛出版、2007)

### 平成28年7月24日(日)

#### ③摂食障害

鈴木智美(精神分析キャビネ)

参考図書:「摂食障害 of 精神分析的アプローチ」(金剛出版社)、「摂食障害 of 出会いと挑戦」(岩崎学術出版社)

#### ④総括

### 第3回『パーソナリティ障害』

コーディネーター: 福井敏

今日的病態であるパーソナリティ障害の理解と治療に対する精神分析理論の貢献と、臨床実践における基本的な技法について述べられます。

平成28年9月24日(土)

①パーソナリティ障害の治療の実際

福井敏(精神分析研究室②)

参考図書:「パーソナリティ障害の精神分析的アプローチ」(金剛出版)

②パーソナリティ障害の精神分析理論

松木邦裕(京都大学)

1) パーソナリティ理論 2) パーソナリティ障害理論 3) 治療技法論

参考図書: 松木邦裕・福井敏編「パーソナリティ障害の精神分析的アプローチ」(金剛出版、2009)

平成28年9月25日(日)

③パーソナリティ障害治療のマネージメント

鈴木智美(精神分析キャビネ)

参考図書:「パーソナリティ障害の精神分析的アプローチ」(金剛出版)

④総括

### 第4回『治療機序論』

コーディネーター: 古賀靖彦

こころに精神分析が治療的に作用する時、それはどのような目的で、どのような目標に向けて、実践されるのでしょうか。また、どのような治療機序がそこに働いているのでしょうか。これらの重要な課題について、アセスメントと終結の時期を含めて、学んでいきます。

平成28年11月19日(土)

①アセスメント

古賀靖彦(油山病院)

参考図書: 菊地孝則「精神分析的臨床を構成するもの—精神分析的アセスメント—」『精神分析研究』59巻2号2015年、古賀靖彦「夢とアセスメント面接」『精神分析研究』50巻2号2006年

②終結に向けて

北山修(北山精神分析研究室)

1) フロイドの「終わりなき分析」 2) 中断と終結期 3) 症例の未来

参考図書: Freud, S. 「終わりある分析と終わりなき分析」、北山修「劇的な精神分析入門」(みすず書房)、北山修「評価の分かれるところに」(誠信書房)

平成28年11月20日(日)

③治療機序

藤山直樹(個人開業・上智大学)

精神分析的経験が何をもたらすのか考えよう。

参考図書: 藤山直樹「精神分析という営み」「続精神分析という営み」(岩崎学術出版社)、松木、藤山「精神分析の方法と本質」「夢、夢みること」(創元社)

④総括

## 第5回『症例から学ぶ』

コーディネーター:古賀靖彦

さまざまな理論や技法論から学ばれた多くのことは、臨床に生かされ、経験によって確かめられなければなりません。今回は、精神分析症例と精神分析的な精神／心理療法症例それぞれの症例から学ぶことを中心に、これらの対比における異同についても学びます。

平成29年1月21日(土)

①精神分析と精神分析的な精神／心理療法、およびスーパービジョン

古賀靖彦(油山病院)

参考図書:ドナルド・メルツァー『精神分析過程』(金剛出版)、藤山直樹「週1回の精神分析的セラピー再考」『精神分析研究』59巻3号2015年、Ogden, T.H.(2005):On psychoanalytic supervision, International Journal of Psycho-Analysis, 86:1265-80

②症例:自虐的な病理構造体

永松優一(福間病院)

参考図書:松木邦裕・福井敏編「パーソナリティ障害の精神分析的アプローチ」(金剛出版、2009)、EBスピリウス編「メラニークライアントゥデイ」①～③(岩崎学術出版、1993)

平成29年1月22日(日)

③症例:低頻度の寝椅子を使った精神分析的な精神療法例

山崎篤(中村学園大学短期大学部・川谷医院)

参考図書:「週1回設定の心理療法を精神分析的に行うための必要条件-週複数回頻度の精神分析的な心理療法実践の立場から」(飛谷渉「精神分析研究」2012, 56(1))

④総括

## 第6回『精神分析の応用』

コーディネーター:松木邦裕

精神分析が獲得してきた人間理解、関係性への知識、臨床技法を様々な臨床場面で活用することは、私たちの臨床実践を豊かで深みのあるものにします。その一端を心理臨床、精神科臨床、集団療法から紹介します。

平成29年3月18日(土)

①日常心理臨床への応用

松木邦裕(京都大学)

1)臨床環境と集団心理 2)面接構造 3)期限設定

参考図書:湊真季子・岩倉拓也著「事例で学ぶアセスメントとマネジメント」(岩崎学術出版社、2014)、田中健夫「「知ることの制止」と消化過程」精神分析研究53(1):12-21, 2009

②精神科日常臨床の中で

川谷大治(川谷医院)

参考図書:『精神療法』VOL40 NO.3 特集:日常臨床における力動的な精神療法の意義

平成29年3月19日(日)

③集団療法

福井敏(精神分析研究室②)

参考図書:「力動的な集団精神療法」(金剛出版)

④総括

講義終了後 講師と自由に語る

松木邦裕・福井敏

